
平成29年度

熊本県博物館ネットワークセンター活動報告書

熊本県博物館ネットワークセンター

熊本県博物館ネットワークセンターは、平成27年4月の設置以来、県内の博物館や資料館の連携を軸とした、「いつでも・どこでも・だれでも」博物館活動に親しんでもらえるよう、県内博物館等による共同企画展の開催、共有可能な資料データベースの構築・運用・公開等、様々な取組みを進めております。

昨年度は、「熊本県博物館ネットワークセンター企画展・移動展」、「講座」、「ミュージアムパートナー」、「フィールドミュージアムに飛び出そう！」など、熊本地震発生後、中断又は縮小していた従来からの事業を再開するとともに、熊本地震発災直後から取り組んでいる未指定文化遺産レスキュー活動を引き続き行ってまいりました。

これからも更に博物館相互の連携を深め、県内の博物館活動の活性化と、県民皆様が誰でも博物館活動に参加できる環境づくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成30年7月25日
熊本県博物館ネットワークセンター
所長 松井 浩

目次

1 展示活動	
(1) 企画展示	1
(2) 移動展示	8
2 情報発信活動	
(1) 熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト	10
(2) 出版物	10
3 研修活動	
(1) 総合プロデューサー育成研修	11
(2) スキルアップ研修	11
4 学習支援活動	
(1) フィールドミュージアムへ飛びだそう！	12
(2) 熊本を知る講座	14
(3) キッズミュージアム	16
(4) 移動体験教室・講師派遣	16
(5) 団体利用	18
(6) 博物館実習・職場体験	18
(7) 熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーズ制度	19
(8) 熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーズクラブ	19
(9) 学校移動展示用パッケージ作成	21
5 資料収集整理活動	
(1) 熊本県博物館資料データベース事業	21
(2) 熊本県学芸員等人材データベース事業	22
(3) 資料収集・整理状況	23
6 未指定文化財レスキュー事業	
(1) 熊本地震被災文化財事業の概要	29
(2) 実施状況	30
7 資料	
(1) 平成 29 年度職員一覧	31
(2) 熊本県博物館ネットワークセンター条例	32
(3) 施設平面図	35
(4) 熊本県博物館ネットワークセンターへのアクセス	36

注) **太文字 (ゴシック)** の事業は、県内博物館等との連携強化に向けて相互に協力して実施した事業

1 展示活動

(1) 企画展示

① 絵葉書ものがたり

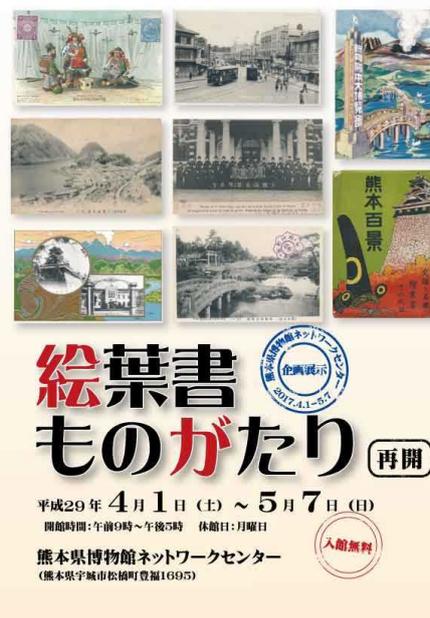
開催期間 平成29年4月1日～平成29年5月7日
協力 熊本県文化企画・世界遺産推進課
観覧者数 360人
展示点数 226点
担当 中村幸弘、松本晃世、堤将太

(展示趣旨)

明治後期に発行が始まった絵葉書は、明治37・38年（1904・1905）の日露戦争期に爆発的に流行し、イベント・行事の記念絵葉書、ニュースを伝えた絵葉書、風景を写した絵葉書など、さまざまなものが発行された。

絵葉書は書簡としての役割とともに、カメラが一般に普及する以前には、人々にとって視覚的な画像情報を得る、または伝えることができる貴重な媒体としての役割を担った。絵葉書に印刷された図柄や写真からは、当時の社会や文化を読み取ることができ、現在の私たちにとって貴重な歴史資料となる。

本展示では、当センターが所蔵する明治・大正・昭和の絵葉書を展示し、歴史資料としての絵葉書、絵葉書を通した近代熊本の出来事や風景を紹介。



(展示構成と主な展示資料)

1 絵葉書いろいろ

絵葉書ブームのはじまりから、明治・大正・昭和に発行されたさまざまな絵葉書を、出来事、風景などの内容を分けて紹介する。行事などの記念絵葉書、ニュースを題材とした絵葉書、名所・旧跡や人々の生活の風景を写した絵葉書、戦争関係の絵葉書などを展示。

<主な展示資料>

明治三十七八年戦役陸軍凱旋観兵式記念絵葉書、伊豆大震災の実況絵葉書、日本南極探検隊土産南極圏実景写真絵葉書（第一集）、岐阜長良川鶴飼、国立公園日光の景勝、日本風俗絵葉書、少年倶楽部絵はがき

2 絵葉書にみる近代熊本

熊本に関する絵葉書を展示し、絵葉書にみる近代熊本の出来事や風景を紹介する。行事などの記念に作成された絵葉書から出来事を、また名所・旧跡などの風景を写した絵葉書から、明治から昭和の風景を紹介。

<主な展示資料>

明治三十五年陸軍特別大演習記念絵葉書、昭和六年十一月陸軍特別大演習記念絵葉書、新興熊本大博覧会記念絵葉書、陸軍特別大演習記念熊本名勝絵葉書、熊本百景史跡と名勝絵葉書、（熊本百景）三角港全景〔其一〕



3 絵葉書の利用

当時の人々の絵葉書の利用について紹介する。書簡として用いられた絵葉書、コレクションとして収集された絵葉書、記念スタンプの押された絵葉書を展示し、画像情報を伝えるために用いられた絵葉書の役割、絵葉書の収集や交換が身近に行われたことを紹介した。

<主な展示資料>

書簡（絵葉書「新興熊本大博覧会 正門」）、仏国派遣救護班活動絵葉書、軍事郵便、絵葉書帳



②くまもとの猛禽類

開催期間 平成29年5月16日～平成29年7月2日

協力 日本野鳥の会熊本県支部

観覧者数 1,712人

展示点数 92点（うち借用写真 33点）

担当 天野守哉、中菌洋行

（展示趣旨）

これまでに熊本県内で確認されている鳥類は348種であり、このうち、猛禽類と呼ばれているフクロウ科、タカ科、ミサゴ科、ハヤブサ科は30種が確認されている。

本展示では生態系の頂点に立つ猛禽類の世界を、当センター所蔵の剥製や、日本野鳥の会熊本県支部の会員撮影による美しい生態写真により紹介。



（展示構成と主な展示資料）

1 猛禽類とは

猛禽類の定義について解説し、猛禽類を構成するフクロウ科・タカ科・ミサゴ科・ハヤブサ科の各科について代表的な種を剥製で紹介。

<主な展示資料>

フクロウ・オオタカ・ミサゴ・ハヤブサの剥製

2 フクロウ科・タカ科・ミサゴ科・ハヤブサ科

猛禽類を構成する各科の特徴と、熊本県内で確認されている各科の構成種を剥製や写真で紹介。

<主な展示資料>

熊本県内で確認されているフクロウ科・タカ科・ミサゴ科・ハヤブサ科の各種の剥製や写真

3 猛禽類の骨格

フクロウ科・タカ科・ミサゴ科・ハヤブサ科の各科について代表的な種の全身骨格を展示し、それぞれの形態的特徴を紹介。

<主な展示資料>

フクロウ・ハイタカ・ミサゴ・ハヤブサの全身骨格

4 見分け方のコツ

野外での識別が難しい種類について、飛翔時の写真を用いそれぞれの特徴と識別のコツを紹介。

<主な展示資料>

オオタカ・ハイタカ・ハヤブサ・ハシブトガラスの剥製

5 猛禽類の渡り

猛禽類のうち、渡りのルートが比較的明らかになっているサシバ・ハチクマ・アカハラダカ・ハイタカの4種について、秋季の渡りルートを紹介。

<主な展示資料>

サシバ・ハイタカの剥製、アカハラダカの鷹柱の写真

6 猛禽類の餌

猛禽類の餌となる動物について、主要なものを剥製や標本を用いて紹介。

<主な展示資料>

猛禽類の餌となる哺乳類・鳥類の剥製、爬虫類・両生類・昆虫類の標本

7 猛禽類に会いに行こう！

猛禽類を観察する際に必要な道具類や注意点について紹介。

<主な展示資料>

図鑑類、双眼鏡、スコープ、三脚、野帳

関連企画

記念講演「熊本県内に生息する猛禽類」(5月21日、47人)

自然観察会「身近な鳥を観察しよう」(5月28日、7人)



③熊本地震と文化財レスキュー

開催期間 平成29年7月11日～平成29年9月3日

観覧者数 1347人

展示点数 70点

担 当 中村幸弘、迫田久美子、松本晃世、堤将太



(展示趣旨)

熊本地震では熊本のシンボルである熊本城や阿蘇神社など数多くの文化財が大きな被害を受けた。国や県の指定等の文化財だけでも157件を数え、東日本大震災での宮城県の被害件数を超えている。しかし、それ以外の市町村指定や未指定の文化財の被害も甚大であり、国は阪神淡路大震災、東日本大震災に続き3度目の緊急に保全措置を必要とする未指定の動産文化財の調査・救出、一時保管を行う文化財レスキュー事業を実施した。

本展示では、熊本地震発災から今日までのレスキュー事業の展開について紹介するとともに、来館者が文化財やその保護について考える契機となる展示を目指した。

(展示構成と主な展示資料)

1 熊本地震の爪痕

熊本地震のメカニズムや県内の被害状況について紹介する。日奈久断層の剥ぎ取り標本、被害状況の写真パネルなどを展示。

<主な展示資料>

日奈久断層剥ぎ取り標本、断層積み木、液状化現象模型

2 出動！文化財レスキュー

文化財レスキューについて事業内容や作業の流れを紹介する。

<主な展示資料>

各作業で使用する道具類

3 レスキューされた文化財たち

実際にレスキューされた文化財について紹介する。益城町四賢婦人記念館の被災状況やレスキューされた資料を展示した。

<主な展示資料>

書翰(矢嶋楫子)、写真(蘇峰夫妻来津)、箱(頼山陽先生書束)、絵葉書(矢嶋楫子先生領徳碑)」、書籍(国民の友)、机(蘇峰『生誕の記』執筆の机)

④ちょっと昔の暮らし探検Ⅶ

開催期間 平成 29 年 9 月 12 日～11 月 26 日
後 援 熊本県教育委員会 宇城市教育委員会
観覧者数 1,760 人
展示点数 140 点
担 当 國本信夫、迫田久美子



(展示趣旨)

昭和 30 年代後半から 40 年代にかけて、高度経済成長の下、機械化、電化、石油を中心とした化学製品の普及により日々の暮らしは激変した。これほどの日々の暮らしの急変は日本人がこれまで経験したことがないものであった。昭和 30 年代後半から 40 年代まで普通に使われていた暮らしや仕事の道具の中から、小学校 3・4 年生社会科で取り上げられる「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の単元に対応した道具を中心に紹介し、今年度は、更に身近な素材ワラをどのように暮らしに利用してきたかを紹介するコーナーを設け、暮らしの変化を実感することを目指した。

(展示構成と主な展示資料)

1 台所今昔

水道、家電製品、ガス製品の普及で台所の様子は一変した。今では簡単にできることでも昔は大変な労力が必要だった。ご飯を炊くにも竈かまどに火を熾し、火加減を見ながら炊かなければならなかった。そんな時代の食生活に関わる道具と使い方を紹介。

<主な展示資料>

羽釜、火吹き竹、電気釜、飯びつ、箱膳、ちゃぶ台、豆腐箱、醤油瓶

2 より明るく、暖かく

オール電化の住宅では日常炎を見ることは稀であろう。そうでなくてもスイッチ一つで明るくなり、温度が調節できるのは当たり前である。しかし、昔は部屋を明るくするにも暖かくするにも火を燃やさなければならなかった。そんな時代の明かりと暖房の器具を紹介。

<主な展示資料>

燭台、行灯、提灯、ランプ、電灯、火鉢、炬燵、湯たんぽ、電気行火

3 洗濯と裁縫

今では水道の蛇口を開けば水が出るというのは当たり前であるが、水道が普及する以前の水仕事は大変であった。井戸で水を汲みたらい 盥たらい で洗濯をした時代の洗濯と衣類に関する道具を紹介。

<主な展示資料>

井戸の滑車、洗濯機、炭火アイロン、足踏みミシン、く 絞く け台、仕事着、ドンザ



4 田畑で働く

昭和 30 年代後半から農業の機械化が進められ、農機具も激変した。弥生時代に稲作道具が伝えられて以来、工夫が重ねられ、改良されてきた機械化以前の農機具を紹介する。

<主な展示資料>

鍬、^{からすき}犁、田下駄、田植綱、ガンズメ、千歯扱き、足踏み脱穀機、箕、唐箕

5 山で働く

戦後の拡大造林期を経て、山は景観も代わり、仕事内容も機械の導入で大きく変わった。人の力で木を切り、板を切り出していた時代の山の道具を紹介する。

<主な展示資料>

山鋸、大鋸、切り斧、ハツリ斧、造林鎌、皮剥、^{かん}鳶口、鑿、万力爪

6 海・川で働く

漁業も機械化、大型化で大きく変わった。沿岸漁業は衰退し、獲る漁業から栽培する漁業への転換が図られている。以前の海漁、川漁の道具を紹介。

<主な展示資料>

餌木、擬餌鉤、蛸壺、魚伏籠、魚籠、鰻笥、鰻搔、鋤簾、やす

7 ワラの文化

米や麦を収穫した後、得られるワラは手に入りやすく、加工が容易で、丈夫なことから暮らしの様々な場面で利用された。ワラを加工する道具とワラで作ったものを紹介。

<主な展示資料>

ワラスグリ、ワラ打ち槌、草履編み台、草履、俵、注連縄、カワマツリの飾り物

(特記事項)

学校団体見学 6校7回

(見学時には展示説明のほか、体験学習として天秤棒による水運び、洗濯板による洗濯、^{ひの}熨斗によるアイロンがけなどを実施)



⑤阿蘇の植物

開催期間 平成29年12月5日～平成30年2月25日

観覧者数 844人

展示点数 標本87点

担当 稲葉一文 前田哲弥

(展示趣旨)

阿蘇地域に自生する植物を、火山・森林・草原の3つの環境に分けて、さく葉標本と生態写真で紹介した。さく葉標本は当センターが所蔵するものを、生態写真は「阿蘇の野の花」、「九州の野の花」等の著者である佐藤武之氏が撮影したものを使用した。



(展示構成と主な展示資料)

1 火山荒原

<主な展示資料>

イタドリ、イワカガミ、ツクシゼリ

2 森林(北向山、狼ヶ宇土、根子岳、深葉山地)

<主な展示資料>

キジョラン、イワタバコ、ヤハズアジサイ、ヤマアジサイ、イタヤカエデ

3 草原（端辺原野、波野原、山東原野）

＜主な展示資料＞

シラヒゲソウ、サクラソウ、ツクシクガイソウ、スズラン、ハナシノブ、オオマルバノテンニンソウ

⑥くまもとの地質

開催期間 平成30年3月6日～平成30年5月27日

協 力 天草市立御所浦白亜紀資料館、天草ジオパーク推進室、阿蘇ジオパーク推進協議会、御船町恐竜博物館、MPC阿蘇火山調査会、熊本県高等学校教育研究会地学部会、MPC地学研究会、MPCくまもとの大地の成り立ち

観覧者数 1445人

展示点数 165点（うち借用資料2点）

担 当 黒田治、廣田志乃



（展示趣旨）

熊本県を6つの地域に分け、それぞれの地域で採取した岩石・鉱物・化石を見ながら熊本県の地質を解説し、自分たちが暮らす土地の成り立ちや生活との関係を紹介した。

（展示構成と主な展示資料）

1 熊本の地質解説・県の石

導入として熊本県全体の地質について解説し、2016年に選定された「県の石」について紹介した。また、昭和6年の天覧石材標本について紹介した。

＜主な展示資料＞

石神山、石貫ナギノ横穴群、御船層群、御所浦層群 [写真]

鱗珪石、溶結凝灰岩、恐竜化石（レプリカ借用）天覧石材標本（竹葉石、高野辺田石） [標本]

2 県北周辺

プレートの活動でできた岩石、マグマが冷えて固まった岩石よりなり、荒尾以北には石炭を含む地層が分布する。また、約300万年前の火山や湖の堆積物がある。

＜主な展示資料＞

不動岩、万田坑、三加和鉱山、星原層、相良層、小岱山、岳間溪谷（金原の滝） [写真]

石炭、砕石、石灰岩、マサ、マンガン鉱山、アスベスト [産業等]

不動岩の礫、結晶片岩、石灰岩、変はんれい岩、石炭や同じ時代の化石、花崗岩、マサ、八方ヶ岳周辺の岩石、湖堆積物の化石 [標本]

3 県央周辺

約100万年前～15万年前頃に活動していた金峰火山があり、熊本平野は地下水を豊富に溜めている。南にはプレートの活動でできた岩石や恐竜のいた時代に堆積してできた地層が帯状に分布している。現在も構造的な活動が起こっている地域でもある。

＜主な展示資料＞

金峰山、芳野層、城山銅山、津森層、ふとん岩、平岩の不整合、前越の海岸 [写真]

銅山、アスベスト、砕石 [産業等]

金峰火山の岩石、湖堆積物の化石、結晶片岩、片麻岩、竹葉石、銅山の鉱石、

白亜紀の岩石・化石 [標本]

4 阿蘇

大規模噴火によってカルデラが形成され、それ以前の火山活動によってできた山や湖の地層もカルデラの外側に見られる。カルデラ内にはカルデラ形成後に生じた中央火口丘群が分布し、中岳は現在

も活動している。

<主な展示資料>

阿蘇五岳、布田の滝、古閑の滝、十六羅漢、南阿蘇の岩脈、リモナイト鉱山 [写真]

リモナイト、観光、地下水 [産業等]

古い火山活動の岩石、湖堆積物の化石、中央火口丘群の岩石、剥ぎ取り標本 [標本]

○阿蘇火砕流堆積物

菊池の千疊河原、五老ヶ滝、馬門石、手野湧水、木郷の露頭、岩戸神社 [写真]

溶結凝灰岩（県内全域） [標本]

5 県南周辺（八代市中心）

九州山地はプレート活動によって押し上げられてできた急峻な地形であり、褶曲や断層が発達し、様々な時代の色々な地層や岩石が複雑に分布している。

<主な展示資料>

大島、鳩山、坂本の魚卵状石灰岩露頭、褶曲露頭、矢山岳、立神峡、種山鉱山 [写真]

石灰岩、マンガン鉱山、灰石、種山石工 [産業等]

結晶質石灰岩、石灰岩、玄武岩、チャート、化石（古生代～中生代）、輝岩 [標本]

6 県南周辺（人吉・葦北）

プレートの活動によってできた地層よりなるが、人吉市西部から水俣市にかけては約400万年前～120万年前の火山噴出物が広く分布し、人吉市周辺には湖の堆積物が広く分布する。阿蘇の他に宮崎や鹿児島火砕流堆積物も分布する。

<主な展示資料>

鶴木山石灰岩、吉尾銅山、重盤岩、なべ滝、神瀬鍾乳洞、球泉洞、メガロドン、

枕状溶岩露頭、球磨総合運動公園（人吉層）、柱状節理 [写真]

銅山、その他鉱山、石灰岩、鍾乳洞 [産業等]

石灰岩、火山岩（枕状溶岩、肥薩火山岩類）、花崗岩、チャート、湖堆積物の化石、阿蘇以外の溶結凝灰岩、鉄平石、そろばん玉石 [標本]

7 天草

天草上島と下島の大部分は約1億年前～5000万年前に堆積してできた地層が分布しており、下島では石炭を含んでいる。西海岸にはプレートの活動によってできた岩石もある。約1300万年前の火山活動でできた岩石は陶石や砥石として利用されている。三角岳から大矢野島にかけては約400万年前～300万年前の火山噴出物が分布し、湖の堆積物も点在する。湖の堆積物は下島北東部にも分布する。

<主な展示資料>

海食洞、江樋戸の砥石採石場、ケスタ地形、多島海、陶石採石場、高浜変成岩、妙見浦、

烏帽子抗、牛深凝灰角礫岩、富岡半島、鬼の城公園、湯島 [写真]

石炭、下浦石工、石材（下浦石、湯島石、御領石）石、砥石、観光 [産業等]

化石（御所浦層群、姫浦層群、弥勒層群、本渡層群、坂瀬川層群、佐伊津層、大矢野層）、

玄武岩、陶石、砥石、石炭、大矢野の火山岩 [標本]

8 熊本地震との関連

まとめもかねてパネルで紹介

(2) 移動展示

①熊本の地質

会 場 阿蘇火山博物館

開催期間 平成29年3月30日～平成31年3月29日

観覧者数 現在展示中

展示点数 27点

展示概要 化石、岩石、石材の3つのコーナーに実物標本及びパネルを展示し、熊本の地質について伝える展示。化石コーナーでは、熊本の代表的な化石を時代ごとに展示、岩石コーナーでは、熊本の代表的な岩石を、堆積岩、火成岩、変成岩に分類して展示、石材コーナーでは、熊本の代表的な石材を展示。

担 当 黒田治、廣田志乃

②「地質の日」企画 身近に知る「くまもとの大地」

会 場 天草市民センター

開催期間 平成29年5月14日

観覧者数 300人

展示点数 中学校理科移動展示用パッケージ 1セット

展示概要 中学校理科移動展示用パッケージを展示。花崗岩、安山岩、角閃石、輝石などの火成岩6種類と造岩鉱物6種、軽石・火山灰・火山弾・溶岩など火山噴出物を紹介したもの。

担 当 黒田治、廣田志乃

③水辺の生き物

会 場 熊本県環境センター

開催期間 平成29年4月26日～5月28日

観覧者数 2,721人

展示点数 171点

展示概要 過去の企画展示「水辺の生き物」を会場にあわせて再構成して展示。当センター所蔵の剥製やパネルを中心に紹介。

担 当 天野守哉、中藺洋行

④熊本地震と文化財レスキュー

会 場 くまもと県民交流館パレア アクシア

開催期間 平成29年7月1日～8月27日

観覧者数 2,246人

展示点数 43点

展示概要 企画展示「熊本地震と文化財レスキュー」を会場にあわせて再構成して展示。熊本地震の被害と文化財レスキューについて、パネルを中心に紹介。

担 当 中村幸弘、迫田久美子、松本晃世、堤将太

関連企画

シンポジウム「大規模災害時における博物館の役割」

会 場 くまもと県民交流館パレア

開催期日 平成29年7月5日（水）

主 催 熊本県、独立行政法人国立文化財機構

共 催 熊本県教育委員会、熊本県被災史料レスキューネットワーク、熊本県博物館連絡協議会



後 援 熊本県文化財保護協会

観覧者数 143人

担 当 國本信夫、中村幸弘

(開催趣旨)

平成28年熊本地震により多くの文化財が被災したが、いわゆる動産文化財の分野においては、国・県・県教育委員会等が中心となり、被災文化財を保全し、その廃棄・散逸等を防止することを目的とする「文化財救援事業（文化財レスキュー事業）」が実施されている。

本シンポジウムは、「文化財救援事業」開始1年を迎え、熊本地震の経験を踏まえ、日頃の防災を含め、大規模災害時における博物館の役割等を認識することを目的とした。

(日程)

13:00 ~	受付開始
13:30 ~13:35	会挨拶
13:35 ~14:15	基調講演「大規模災害時における博物館の役割」(40分)
14:15 ~14:45	活動報告(30分)
14:45 ~14:55	休憩
14:55 ~16:25	パネルディスカッション「文化財レスキューと博物館」(90分)
16:25 ~16:30	閉会挨拶

(講師等)

(1) 基調講演

九州国立博物館館長 島谷弘幸 氏

(2) 活動報告

九州国立博物館 学芸部長 小泉恵英 氏

熊本市立熊本博物館 学芸員 竹原明里 氏

(3) パネルディスカッション

国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室長 岡田健 氏

日本博物館協会 専務理事兼事務局長 半田昌之 氏

熊本被災史料レスキューネットワーク代表 稲葉継陽 氏

熊本県文化課 課長 岡村郷司 氏

熊本市現代美術館 事務局次長 岩崎千夏 氏

(対象)

県内博物館・美術館学芸員、県内市町村文化行政・文化財担当者、
県文化財保護指導委員、県内市町村文化財保護委員、一般

⑤くまもとの外来生物

会 場 熊本県立松橋高等学校

開催期間 平成29年11月9日～11月17日

観覧者数 241人

展示点数 40点

展示概要 過去に当センターで開催した企画展示「くまもとの外来生物」をもとに、哺乳類や昆虫等の資料を中心に再構成。

担 当 天野守哉、中菌洋行

⑥玉名地域 昭和の祭りと行事

会 場 長洲町 金魚の館

開催期間 平成29年12月1日～12月26日

観覧者数 5,932人

展示点数 54点

展示概要 長洲町の四王子神社で正月に行われる「的ぼかい」を中心に玉名地域で行われている祭りや行事について、民俗写真家白石巖氏が昭和時代に撮影した写真で紹介。

担 当 國本信夫、迫田久美子

⑦昔話の道具展

会 場 くまもと森都心プラザ図書館

開催期間 平成30年3月1日～4月3日

観覧者数 46,717人

展示点数 8点

展示概要 「天狗の隠れ蓑」「亀割石」など熊本に伝わる昔話に出てくる道具をお話とともに紹介。

担 当 國本信夫、迫田久美子

2 情報発信活動

(1) 熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト

事業目的 インターネットを通じた資料データやイベント情報等を提供し、参加館等における資料管理、調査研究、情報発信、県民の博物館活動への参加等を支援する。平成27年10月より運用開始。

参加館等 16館、3市町村（平成30年3月31日現在）
U R L 熊本県総合博物館ネットワークポータルサイト

<http://kumamoto-museum.net/>



(2) 出版物

広報誌

タイトル 熊本の自然と文化 ～熊本県博物館ネットワークセンターだより～ No.37

発行日 平成29年7月31日

掲載内容 開催しました！（シンポジウム、フィールドミュージアムへ飛び出そう！）

資料紹介 箱膳（民俗）

資料紹介 サシバ（動物）

資料紹介 綱利公御祝言記録（歴史）

資料紹介 モウセンゴケ（植物）

資料紹介 フズリナ類（地学）

タイトル 熊本の自然と文化 ～熊本県博物館ネットワークセンターだより～ No.38

発行日 平成29年11月30日

掲載内容 イベント情報、活動報告

資料紹介 高遊原台地をつくる溶岩（地学）

資料紹介 藁すぐりと藁打槌（民俗）

資料紹介 オオコノハズク（動物）

資料紹介 肥後孝子伝 後編（歴史）

資料紹介 ミミカキグサ（植物）

タイトル 熊本の自然と文化 ～熊本県博物館ネットワークセンターだより～ No.39

発行日 平成30年3月15日

掲載内容 イベント情報、活動報告

資料紹介 イヌタヌキモ（植物）

資料紹介 長者だご（地学）

資料紹介 藁の履物 草履・足早・草鞋（民俗）

資料紹介 オオイタサンショウウオ（動物）

資料紹介 野砲兵第24連隊関係資料（歴史）

3 研修活動

(1) 総合プロデューサー育成研修

ア 目的

高い企画能力を持ち、効果的なプロモーション活動や広報活動が行える総合プロデューサー的な能力を有する学芸員等の育成。

イ 研修計画

○第1回研修会「九州・山口の博物館ネットワーク作り」

主催 熊本県博物館連絡協議会

熊本県博物館ネットワークセンター

日時 平成29年6月28日（水）10:00～12:00

場所 御船町役場3階大会議室

参加者 27名

講師 九州国立博物館 博物館科学課 松下久子 氏

内容 九州・山口ミュージアム連携事業や「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業など、九州、山口の博物館ネットワーク作りについて学ぶ。



○第2回研修会「博物館における映像を活用したプロモーション活動について」

主催 熊本県博物館ネットワークセンター

日時 平成30年2月20日（火）13:30～15:40

場所 ホテル熊本テルサ

参加者 20名

講師 筑波大学 情報メディア系教授 西岡貞一 氏

内容 博物館が独自に低コストで、手軽に映像作成ができるツールやプロモーション映像の事例を紹介し、映像を活用したプロモーション技術について学ぶ。

(2) スキルアップ研修

ア 目的

講座・実習をとおり資料保存、展示技術、展示評価等の技能向上、及び、各博物館の取組の紹介や共同事業などに係る意見交換会をとおり、県内博物館の運営力向上を図る。

イ 研修計画

○第1回及び第2回研修会「襖の下張文書剥がしワークショップ」

- 主 催 熊本県博物館ネットワークセンター
後 援 天草市立天草アーカイブズ
日 時 第1回 平成29年9月2日（土） 10:00～15:00
第2回 平成29年9月20日（水） 10:00～15:00
場 所 熊本県博物館ネットワークセンター 多目的広場管理棟会議室
参加者 20名
講 師 三木市文化財保護審議会委員 尾立和則 氏
内 容 襖の下張文書剥がしや剥がした文書の修復技術のスキルアップを目指す。

○第3回研修会「博物館等における資料保存の観点からの照明管理」

- 主 催 熊本県博物館ネットワークセンター
日 時 第1回平成30年2月2日（金） 13:30～15:30
場 所 熊本県博物館ネットワークセンター 多目的広場管理棟会議室
参加者 30名
講 師 東京文化財研究所 保存環境研究室長 吉田直人 氏
内 容 自然光や照明による資料の劣化について学び、資料の保存や展示会場の照明管理のスキルアップを目指す。



4 学習支援活動

(1) フィールドミュージアムへ飛びだそう！ 県内各地で行う家族向け自然観察会

①海辺の生き物を観察しよう

- 開催期日 平成29年6月10日（土）
場 所 上天草市
参加人数 42人
概 要 上天草市大矢野町宮津海遊公園の海に見られる内湾性・外洋性貝類を中心とした観察
講 師 松本達也 氏
担 当 天野守哉、中菌洋行



②阿蘇の植物を観察しよう

平成29年6月25日開催予定であったが、荒天のため中止

③川原の石を観察しよう

- 開催期日 平成29年7月30日（日）
場 所 山鹿市菊池川
参加人数 25名
概 要 川原の石の種類や大きさの観察
講 師 富田克敏 氏、津川清治 氏（菊池川自然塾）
川路芳弘 氏（熊本市立錦ヶ丘中学校）



担 当 黒田治、廣田志乃

④地層と化石を観察しよう

平成29年8月6日に開催予定であったが、荒天のため中止

⑤土星と夏の星座を観察しよう

開催期日 平成 29 年 8 月 26 日

場 所 熊本県民天文台（熊本市南区城南町）

参加人数 92 名

概 要 土星や夏の大きな三角形などの観察、星座物語などの天体に関する講話

講 師 艶島敬昭 氏、中嶋尚 氏、
西嶋好美 氏（熊本県民天文台職員）

担 当 黒田治、廣田志乃、天野守哉



⑥阿蘇の昆虫を観察しよう

開催期日 平成29年9月9日（土曜日）

場 所 阿蘇草原学習館、ゆたっと村

参加人数 31人

概 要 阿蘇の草原の説明とゆたっと村周辺に生息する昆虫の観察

共 催 環境省指定国立公園管理団体 公益財団法人阿蘇グリーンストック

担 当 天野守哉、中菌洋行



⑦月を観察し写真に撮ろう

開催期日 平成 29 年 11 月 2 日

場 所 熊本県民天文台（熊本市南区城南町）

参加人数 61 名

概 要 月の観察、簡易天体望遠鏡を使った月の写真撮影

講 師 艶島敬昭 氏、西嶋好美 氏、
高田祐一 氏（熊本県民天文台職員）

担 当 中村幸弘、廣田志乃



⑧落ち葉図鑑を作ろう

開催期日 平成29年11月26日

場 所 和水町肥後民家村

共 催 和水町教育委員会

参加人数 15人

概 要 和水町肥後民家村内を散策しながら樹木を観察し、落ち葉を集めた。観察終了後、園内の古民家内で、集めた落ち葉を使って図鑑作りを行った。

担 当 稲葉一文、前田哲弥



⑨水辺の冬鳥を観察しよう

開催期日 平成30年2月3日

場 所 宇城市不知火町大野川

参加人数 9人

概 要 宇城市不知火町大野川にやってくる水辺の冬鳥を中心とした観察

担 当 天野守哉、中菌洋行



(2) 熊本を知る講座 熊本の自然や文化について学ぶ一般向けの講座

①貝類学講座

開催期日 平成29年6、8、10、12、2月の第3土曜日 午前10時～正午

会 場 熊本県博物館ネットワークセンター

受講人数 28人(計5回)

趣 旨 熊本県内に生息する貝類について見分け方や生息環境などを学び、貝について興味・関心を持ってもらう。

内 容 6月17日 「総論 貝類ってどんな生き物」
8月19日 「貝類の分類Ⅰ 腹足類(巻貝)」
10月21日 「貝類の分類Ⅱ 斧足類(二枚貝)」
12月16日 「貝類の分類Ⅲ 陸貝・淡水貝」
2月17日 「貝類学応用編・貝類の標本の作り方」

講 師 松本達也 氏

担 当 天野守哉、中菌洋行

②昆虫標本作り講座

開催期日 平成29年7月29日、8月5日、8月12日の各土曜日 午前10時～午後3時

会 場 熊本県博物館ネットワークセンター

受講人数 11人(計3回)

趣 旨 熊本県博物館ネットワークセンター周辺に生息する昆虫を採取し、標本にすることで、昆虫について興味・関心を持ってもらう。

内 容 昆虫の採取と標本化(各回1日で完結)
説明、昆虫の採取、標本作製

担 当 中菌洋行、天野守哉

③植物観察講座

開催期日 平成29年6月～平成30年2月 毎月第2土曜日

会 場 熊本県博物館ネットワークセンター、ほか県内各地

受講人数 32人(計8回)

趣 旨 植物についての基本的な観察や記録の方法の講義や実習を通して、調査に必要となる基本的な知識や技術を習得し、身近な自然に興味や親しみをもつきっかけを提供する。

講座内容 「植物の分類」「写真撮影法」「生物スケッチ」「阿蘇の植物」「種子の観察」ほか

担 当 稲葉一文、前田哲弥

④金峰山の地質

開催期日 平成29年7月～平成30年3月 奇数月第1日曜日

(1月は第3日曜日、3月は第4日曜日)

会 場 熊本県博物館ネットワークセンター、金峰山周辺
主 催 熊本市立熊本博物館、熊本県博物館ネットワークセンター
受講人数 81人（計5回）
趣 旨 熊本市にある金峰山はどのような山で、どのようにしてできたのかを座学や現地調査を通して地質学の観点から学ぶ。
講 師 川路芳弘 氏（熊本市立錦ヶ丘中学校）
担 当 黒田治、廣田志乃

⑤熊本の祭り・行事・芸能

開催期日 平成29年6月～平成30年3月 毎月第2木曜日
会 場 和水町中央公民館
主 催 和水町教育委員会、熊本県博物館ネットワークセンター
受講人数 135人（計10回）
趣 旨 熊本県内で季節ごとに行なわれる様々な祭りや行事について意味、内容、見所また、それに合わせて演じられる民俗芸能などを紹介する。
内 容 第1回 6月 8日 暦と祭り行事
第2回 7月13日 災厄を除ける祭り
第3回 8月10日 熊本のお盆
第4回 9月14日 刈上げ祭りと十五夜綱引き
第5回 10月12日 熊本の秋の祭礼
第6回 11月 9日 霜月祭り
第7回 12月14日 熊本のお正月
第8回 1月11日 トシゴイの祭礼と節供
第9回 2月 8日 熊本の民俗芸能① 神楽
第10回 3月 8日 熊本の民俗芸能② 田楽・風流
担 当 國本信夫、迫田久美子

⑥古写真を読み解く

開催期日 平成29年6月～平成30年2月の第2火曜日
会 場 熊本県博物館ネットワークセンター
受講人数 25人（計9回）
趣 旨 写真から情報を読み取る力を養い、古写真を通して熊本の民俗や暮らしの変遷を読み取っていく。
内 容 第1回 6月27日 写真資料の可能性
第2回 7月25日 テーマ「祭り・年中行事」
第3回 8月22日 テーマ「家事・暮らし」
第4回 9月26日 テーマ「子ども・学校」
第5回 10月24日 テーマ「仕事」
第6回 11月28日 移動展示「玉名地域 昭和の祭りと行事」製作
第7回 12月26日 写真読み解き実習
第8回 1月23日 写真読み解き実習
第9回 2月27日 写真読み解き実習
担 当 國本信夫、迫田久美子

⑦古文書読み解き講座

開催期日 平成29年10月～平成30年1月 毎月第1土曜日

会 場 熊本県博物館ネットワークセンター

受講人数 40人（計4回）

趣 旨 当センターが所蔵する歴史資料（古文書）を教材として活用し、受講者が古文書に親しみながら基礎知識や基本的な読解力を身に付けることを目指す。

使用資料 「通俗伊蘇普物語」「細川斉護御書出」「訂正 帝國讀本」ほか

担 当 中村幸弘、松本晃世

⑧天草の古文書基礎講座

開催期日 平成29年6月～平成30年3月の第3金曜日

主 催 天草市、熊本県博物館ネットワークセンター

会 場 天草市文化交流館

受講人数 270人（計10回）

趣 旨 天草の銀主石本家の古文書など天草に伝来する古文書の中からテキストを選び、読み下しの演習を行いながら、古文書が語る江戸時代の天草の歴史や社会状況を学ぶことを目的とする。

使用資料 「御領石本家文書」「肥後天草之図」「天草嶋古城図」ほか

担 当 中村幸弘、堤将太

(3) キッズミュージアム 楽しく遊びながら自然や伝統文化を体験する子ども向けプログラム

主 催 熊本県博物館ネットワークセンター、ミュージアムパートナーズクラブ

会 場 熊本県博物館ネットワークセンター

開催期日 平成29年7月22日(土)、23日(日)

参加者数 230人（2日間合計）

(体験プログラム)

22日 葉脈しおりをつくろう、化石レプリカをつくろう、はっぱもようのブックカバーをつくろう、和とじノートをつくろう、鉱物万華鏡をつくろう



23日 渋柿染めでエコバックをつくろう、拓本をつくろう、貝がらで工作をしよう、藍染にチャレンジしよう、アートうちわをつくろう、セミのぬけがらをさがそう



(4) 移動体験教室・講師派遣

①移動体験教室

6月24日 大江小 5年PTA（空飛ぶ種子 21人）

7月 9日 松橋小 6年PTA（貝がらクラフト 62人）

7月30日 城西校区2-B町内子ども会（貝がらクラフト 24人）

- 8月 1日 子ども発達支援ステーション（化石レプリカ 7人）
- 8月 1日 松橋第2学童保育（草木染め 36人）
- 8月18日 豊福第2学童保育（化石レプリカ 35人）
- 8月18日 豊福第1学童保育（化石レプリカ 42人）
- 8月18日 麦島こむぎクラブ（葉脈標本 36人）
- 8月19日 児童発達支援さくら（化石レプリカ 60人）
- 8月23日 不知火学童保育所（葉脈標本 38人）
- 8月24日 田底小たけのっこクラブ（石臼きな粉 40人）
- 8月25日 白川小学校家庭教育学級（草木染め 28人）
- 8月26日 中西寺子ども会（空飛ぶ種子 20人）
- 8月27日 託麻北小4町内子ども会（化石レプリカ 10人）
- 8月28日 新下谷子ども会（貝がらクラフト 19人）
- 9月 5日 山田小放課後クラブ（葉脈標本 15人）
- 10月14日 豊川小学校4年（貝がらクラフト 39人）
- 10月21日 西合志第一小学校3年（化石レプリカ 36人）
- 10月22日 花園台自治会（貝がらクラフト 39人）
- 10月22日 花園台自治会（葉脈標本 27人）
- 11月 5日 宇土小学校（葉脈標本 96人）
- 11月12日 宇土市立花園小学校（葉脈標本 40人）
- 11月19日 託麻東児童育成クラブ（空飛ぶ種子 55人）
- 2月10日 装飾古墳館（貝がらクラフト 70人）
- 2月10日 装飾古墳館（どんぐりクラフト 80人）
- 3月 5日 内牧小学校放課後子ども教室（葉脈標本 54人）

②講師派遣

- 5月 5日 古墳館へ5・5・Go！（どんぐりクラフト 100人）
- 6月 2日 パレア 県民カレッジ（「救え！美術品や古文書」 95人）
- 6月17日 ミュージアムキッズ全国フェア（はっぱもようのブックカバー 130人）
- 6月18日 ミュージアムキッズ全国フェア（コハクのペンダント 142人）
- 7月14日 熊本大学講義（博物館教育論 38人）
- 10月29日 高等学校生徒理科研究発表会（審査員 150人）
- 12月11日 砥用小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 19人）
- 1月 9日 さわやか長寿大学八代校講演（熊本の年中行事 58人）
- 1月23日 松橋小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 78人）
- 1月23日 熊本大学講義（博物館経営論 35人）
- 1月24日 豊福小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 83人）
- 2月24日 小野部田小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 14人）
- 2月 9日 泗水東小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 42人）
- 2月14日 美咲野小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 142人）
- 2月15日 県文化課レスキューサポーター養成講座（講話とワークショップ 28人）
- 2月22日 上小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 40人）
- 2月27日 くまもと森都心プラザ図書館（古文書に関する基礎講座 27人）
- 2月28日 不知火小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 61人）
- 3月14日 日吉小学校社会科授業（昔の道具と昔の暮らし 80人）

(5) 団体利用

- 6月21日 湯前町文化協会（バックヤード見学 16人）
- 8月 9日 教育センター（中学理科 4人）
- 8月17日 熊本大学（館園見学 21人）
- 8月21日 熊本大学（館園見学 20人）
- 8月24日 教育センター（県立理科 7人）
- 10月 3日 松合小学校（展示説明 16人）
- 10月 4日 大崎総合研究所（資料見学 35人）
- 10月 5日 教育センター（5年経験者、初任者研修 4人）
- 10月12日 宇土小学校（展示説明 127人）
- 10月15日 熊本記念植物採集会（資料見学 18人）
- 10月19日 乙女小学校（展示説明 28人）
- 11月 7日 当尾小学校（展示説明 66人）
- 11月 9日 松橋東支援学校（展示見学 5人）
- 11月11日 宇城市観光協会（展示説明 42人）
- 11月24日 三角小学校（展示説明 36人）
- 12月13日 松橋東支援学校（展示見学 9人）
- 3月 5日 青海小学校（社会科授業 13人）

(6) 博物館実習・職場体験

①博物館実習

期 間 平成29年10月2日～11日（土日、祝日を除く7日間）

受入学生 熊本大学 1人

実習内容

- 2日（月）午前 オリエンテーション、バックヤード見学
午後 ネットワークセンター業務及び4分野の業務説明
- 3日（火）午前 地学分野業務説明、実習課題についての説明
午後 資料整理業務実習（整理、クリーニング、リスト作成）
- 4日（水）午前 資料整理業務実習（整理、クリーニング、リスト作成）
午後 資料整理業務実習（整理、クリーニング、リスト作成）
- 5日（木）午前 剥ぎ取り標本の解説
午後 剥ぎ取り標本の解説文作成実習
- 6日（金）午前 地学展示製作実習
午後 地学展示製作実習
- 10日（火）午前 地学展示製作実習
午後 地学展示製作実習
- 11日（火）午前 地学展示製作実習
午後 展示発表会

②職場体験

期 間 平成29年8月31日～9月2日

受入生徒 県立宇土中学校 6人

実習内容 学芸員の仕事とは

○博物館とは、博物館の主な業務、学芸員とは、学芸員になるには

展示ってなんだろう

- 学校が行う教育と博物館が行う教育の違い、ミュージアムリテラシー、展示とは、
- ミュージアムリテラシーを涵養するために（「ふでばこ展示会」の実施）

（7）熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーズ制度

概要 熊本県内の自然や文化に興味・関心を持ち、当センターと協働した「県民参加型の博物館活動」に主体的に携わる意志がある方を対象とした登録制度。

登録説明会 平成29年5月21日(日) 対象者21人、参加者数10人

登録者数 88人

（8）熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーズクラブ

活動概要 熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーにより組織された活動団体として各活動クラブに分かれて活動している。当センターとの協働により、熊本県内の自然や文化の調査研究及び学習支援、情報発信等の活動を行っている。

活動内容 4月12日 第1回連絡会
5月16日 第2回連絡会
5月21日 平成29年度総会
7月22日、23日 キッズミュージアム共催

（活動クラブ）

①くまもとの大地の成り立ち

活動人数 40人
活動日 偶数月第1日曜日
活動内容 熊本県下の地質現象がよくわかる場所での学習会及びサンプル収集。



②阿蘇火山調査会

活動人数 14人
活動日 毎月第3木曜日
活動内容 阿蘇火山博物館との協働による外輪山の地質調査
熊本地震の活断層トレンチの見学
阿蘇火山にまつわる地質の調査及びサンプル収集



③地学研究会

活動人数 6人
活動日 毎週水・金曜日
活動内容 当センターの岩石・鉱物・化石の同定、整理
収蔵標本に関する地質データの整理

④草木染めの会

活動人数 9人

活動日 毎月第2土曜日

活動内容 6月～11月

宇城市インダストリアル研修館の草木染講習会で講師を担当

7月

キッズミュージアムで「柿渋染め」「藍の生葉染め」を実施

その他の月

梅、杏子、ハルジオン、ドングリなど身近な植物での染色を実施



⑤松橋地域史調査クラブ

活動人数 5人

活動日 毎月第1土曜日

活動内容 秋岡家文書の調査（読解）

⑥雁回山の植物を観る会

活動人数 11人

活動日 毎月第2土曜日

活動内容 雁回山の植物相調査と雁回山の植物標本の作成

⑦南阿蘇植物の会

活動人数 8人

活動日 毎月第2火曜日

活動内容 阿蘇野草園やその周辺に自生する野生植物の観察及び標本の作成
標本や写真を使った企画展示の開催

⑧貝類調べ隊

活動人数 19人

活動日 毎月第3土曜日

活動内容 熊本県内に生息する貝類の調査研究



⑨シダを楽しもう会

活動人数 14人

活動日 毎月第1土曜日

活動内容 熊本県内に自生しているシダ植物の調査研究

⑩交流支援クラブ

活動人数 5人

活動日 毎月第1火曜日 午後1時30分から

活動内容 ミュージアムパートナーズクラブ総会や連絡会の準備
ミュージアムトークや展示解説会等の会員交流イベントの企画運営

(9) 学校移動展示用パッケージ作成

自然に興味関心を持ってもらうため、当センターにある実物資料を、学校の教育課程と重ね合わせ学校現場で活用できるよう、現場の教員の意見を聞きながら作成した移動展示用パッケージ。

①小学校生物

「身近な生きもの」

身近なところ（野原、林、水辺）に生息する生き物をアクリル樹脂封入標本、パウチパネルなどで紹介したもの。



5 資料収集整理活動

(1) 熊本県博物館資料データベース事業

事業目的 熊本県内の博物館等が所蔵する博物館資料に係るデータ管理を効率化するとともに、資料データを共有し、展示や調査研究のための利活用の促進を図る。

事業内容 収蔵資料管理システム、資料情報公開システム及びポータルサイトの運用

参加館等 16館、3市町村、資料登録件数は406,957件（平成30年3月31日現在）

U R L 熊本県総合博物館ネットワークポータルサイトからアクセス

<http://kumamoto-museum.net/> (http://jmapps.ne.jp/kumamoto_museum/)



(2) 熊本県学芸員等人材データベース事業

事業目的 熊本県内の博物館・資料館等に所属する学芸員、県・市町村教育委員会の文化行政担当者、学校教職員等が有する専門的な知識や技術の調査を行い、その情報をもとにデータベースを作成し、博物館等における調査研究、展示及び講演会等の博物館活動の充実を図る。

事業内容 熊本県学芸員等人材データベースの作成及び関係機関への配付
熊本県学芸員等人材データベース（web版）の作成及び公開（平成27年10月）

登録者数 132人（平成30年3月31日現在）

U R L 熊本県学芸員等人材データベース（web版）公開ページ

<http://kumamoto-museum.net/human>



(3) 資料収集・整理状況

①動物分野

資料収蔵点数

コレクション名	資料点数(概数)
立志徹郎氏寄贈貝類等標本	57,500
久川健氏寄贈昆虫標本・書籍	5,500
入江照雄氏寄贈動物標本・切手	4,000
藤田慎一氏寄贈昆虫標本・書籍	3,000
済々黌高校寄贈液浸標本	2,500
第一高校寄贈剥製・貝類標本等	2,000
甲守崇氏寄贈魚類等液浸標本	700
熊本大学教育学部寄贈剥製・液浸標本	500
熊本大学理学部寄贈剥製・液浸標本	200
宇土高校寄贈液浸・貝類標本	200
その他	7,400
	83,500

平成29年度の受入資料

ヘラサギ	1点
アオバズク標本	2点
甲守崇 氏寄贈液浸標本	747点
熊本大学理学部寄贈仮剥製・液浸標本	193点

資料登録点数

分類群	乾燥(剥製等)	液浸	計
NB11(哺乳類)	359	115	474
NB12(鳥類)	991	1	992
NB13(両生・爬虫類)	44	332	376
NB14(魚類)	58	2,107	2,165
NB15(昆虫類)	9,908	410	10,318
NB16(多足類)	11	857	868
NB17(甲殻類)	21	952	973
NB18(軟体動物)	4,693	245	4,938
NB19(その他分類群)	4	30	34
合計	16,089	5,049	21,138

平成29年度の主な整理登録作業

- 久川健氏寄贈昆虫標本整理及び登録
- 熊本県立第一高等学校寄贈貝類標本整理及び登録
- 熊本県立済々黌高等学校寄贈陸産標本分類整理

②植物分野

資料収蔵点数 約 260,000 点

資料登録点数（平成 29 年度登録点数）

分類群	全登録点数	平成 29 年度登録点数
NB2（植物）	198,713	6,701
NB3（菌類）	2,395	0
NB4（藻類）	782	0
合計	201,890	6,701

平成 29 年度受入資料

県立河浦高校寄贈植物標本、矢加部和幸寄贈標本、
ミュージアムパートナーズクラブ雁回山の植物を観る会

平成 29 年度の主な整理登録作業

ミュージアムパートナーズクラブ「雁回山の植物を観る会」および県立第一高校標本、
東海大学、熊本大学の標本の登録・配架作業

③地質分野

資料収蔵点数

コレクション名	資料点数（概数）
今西茂標本	1,500
長谷義隆標本	10,000
アトラス熊本標本	174
荒尾宏岩石標本	200
熊本大学理学部地学科進級論文標本	4,700
河野通幸化石標本	217
岩崎泰穎標本	6,500
津末昭生標本	4,300
熊本大学工学部標本	10,000
熊本大学理学部地学科卒業・修士論文標本	5,300
村田正文標本	1,100
遠藤誠道植物化石標本	600
斉藤林次標本	200
早田幸作標本	200
千藤忠昌標本	1,300
植田和男標本	100
フェイス女学院 松本唯一標本	270
桂輝雄標本	100
田中均標本	8000
その他（少数寄贈、職員製作など）	250
合計	55,011

平成 29 年度受入資料

田中均寄贈標本約 8000 点

ミュージアムパートナーズクラブ阿蘇火山調査会採取標本 20 点

ミュージアムパートナーズクラブくまもとの大地の成り立ち採取標本 10 点

個人寄贈・職員採取標本 20 点

登録点数

大分類	小分類	登録点数 (概数)
岩石	堆積岩	4,381
	火成岩	4,838
	変成岩	1,425
	その他	1,588
鉱物・鉱石	元素鉱物	325
	硫化鉱物	957
	ハロゲン化鉱物	116
	酸化・水酸化鉱物	1,146
	炭酸塩・硝酸塩・ホウ酸塩鉱物	514
	硫酸塩・タンゲステン酸塩鉱物	331
	リン酸塩・ヒ酸塩・バナジン酸塩鉱物	191
	珪酸塩鉱物	1,518
	その他	303
植物化石	被子植物	570
	裸子植物	170
	シダ植物	48
	その他	154
動物化石	脊椎動物	97
	原索動物	4
	棘皮動物	103
	節足動物	57
	軟体動物	3,128
	腕足動物	105
	刺胞動物	113
動物化石	その他	72
微化石	動物	107
	植物	4
	その他	1
現生	動物	1,434
	植物	3
その他	その他	3
	合計	23,806

平成 29 年度の主な整理登録作業

熊本大学理学部卒業論文・修士論文標本の整理・登録

岩崎泰穎標本の整理済分の登録

長谷義隆標本の整理済分の登録

展示など使用標本の登録

④歴史分野

資料収蔵点数及び登録点数

コレクション名	資料点数	登録点数
熊本市辛島家資料	23,393	2,257
鏡町下山家資料	2,977	0
渡邊祥隆寄贈資料	1	1
不知火町直江家資料	43	43
嘉島町安藤家資料	769	769
牛深市浜田家資料	140	47
齊藤俊三収集資料	1,071	0
高森町久々宮家資料	34	34
高森町瀬井家資料	541	541
西崎俊秋寄贈資料	204	0
熊本市猿渡家資料	1,021	1,021
三角千代子寄贈資料	6	0
高村勇三収集資料	1,480	0
坂口雅流収集資料	1,656	0
吉倉眞収集資料	17	17
高森町安藤家資料	622	622
森下功旧蔵資料	1,142	1,142
福田巧旧蔵資料	18	18
甲斐英子寄贈資料	18	18
田口幸宗寄贈資料	150	0
岩永武男寄贈資料	511	511
松本達也寄贈資料	64	64
西山佳代寄贈資料	6	6
東アサオ旧蔵資料	8	8
手島清士寄贈資料	1	1
八代市竹田家資料	2,204	2,204
池部美恵子寄贈資料	5	5
森内千佐寄贈資料	1	1
高須恒男寄贈資料	6	6
熊本市米村家資料	400	0
村井眞輝寄贈資料	1	1
大野恵子寄贈資料	2	2
緒方満寄贈資料	39	39
太田喜一郎寄贈資料	2	2
廣吉秀澄寄贈資料	6	6
質地証書類	300	0
宇城市坂口家資料	6	6
熊本市本田家資料	36	36
岡本敬喜寄贈資料	2	2
岩成邦忠寄贈資料	1	1
美當一調関連資料	191	191

熊本県文化課収集生産具	5	5
松原ルミ子寄贈資料	3	3
米村靖雄関係資料	31	31
井手和洋寄贈資料	2	2
合志市齋藤家資料	922	0
熊本私立測量学校関係資料	124	0
宇城市本田家資料	188	0
熊本市小夏家資料	494	0
東矢力也寄贈資料	78	0
熊本市河原家資料	3	3
宇城市岡村家資料	1	1
辻あきこ寄贈資料	52	0
宇城市小田家資料	511	0
その他（購入等）	21	21
合計	41,530	9,688

平成29年度の主な整理登録作業

熊本市辛島家資料、牛深市浜田家資料、岩永武男寄贈資料、熊本市河原家資料、宇城市岡村家資料の整理・登録

合志市齋藤家資料のマイクロフィルム化及びデジタル化

⑤民俗分野

資料収蔵点数及び登録点数

大分類	小分類	資料点数	登録点数
衣食住	衣	640	225
	食	970	581
	住	400	236
生産生業	自然物採集	23	17
	農業	690	681
	山樵	132	126
	採鉱・冶金	11	10
	漁撈・製塩	152	142
	狩猟	10	10
	養蚕・畜産	186	186
	繊維	82	82
交通交易	諸職 手工芸	410	385
	交通	207	151
社会	交易	114	73
	社会	49	19
信仰	神社	10	10
	寺院	47	42
	民間信仰	30	25
民俗知識	教育	134	36
	医療	47	15

	曆	9	5
	卜占	0	0
芸能娯楽	民俗芸能	0	0
	競技	0	0
	娯楽	435	57
儀礼	年中行事	56	49
	人生儀礼	40	37
小計		4,884	3,200
写真資料		154,400	44,819
合計		159,284	48,019

平成 29 年度受入資料

生活用品 約 250 点

平成 29 年度の主な整理登録作業

民具資料15点、写真資料 11,015点

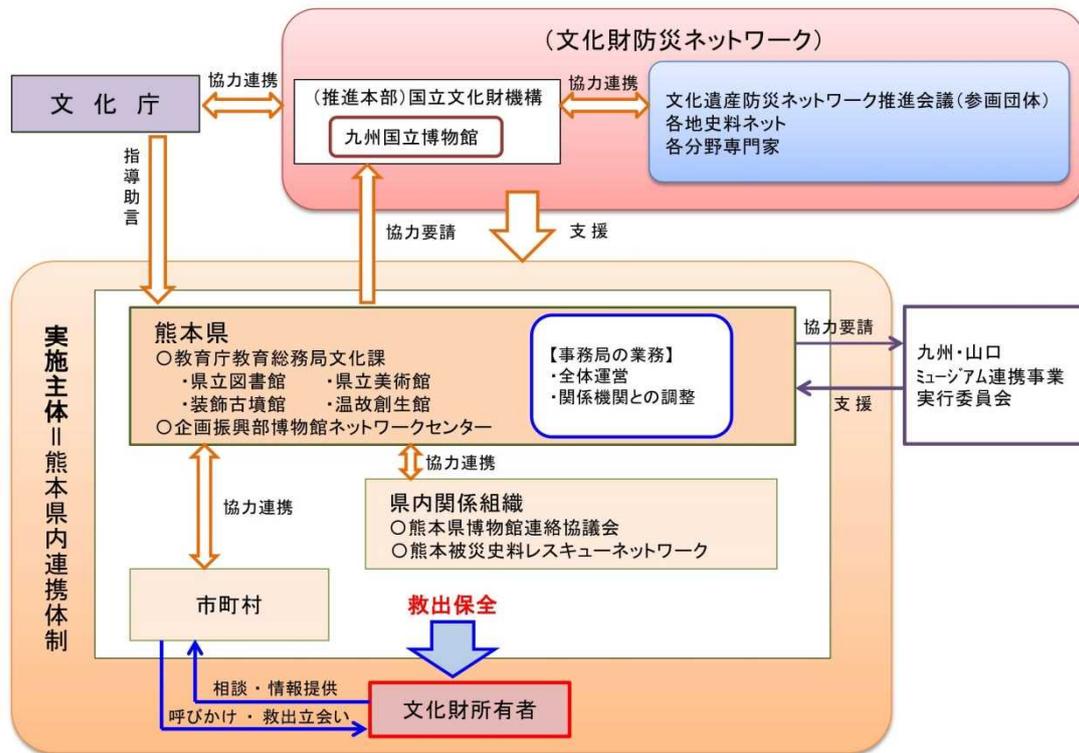
6 未指定文化財レスキュー事業

(1) 熊本地震被災文化財救援事業の概要

平成 28 年度については、国による熊本県被災文化財救援事業が実施され、事前調査を含む各レスキュー活動に参加、協力した。

平成 29 年度については、実施主体が国から県になったが、引き続きレスキュー活動に参加、協力した。県教育委員会、熊本被災史料レスキューネットワークと連携して一般の方を対象に「文化財レスキュー市民サポーター養成講座」を開催して、救出した文化財の清掃、台帳作成等に従事する人材の育成に努めた。

熊本県被災文化財救援事業(熊本県文化財レスキュー事業)体制図



(2) 実施状況（平成30年3月末時点）

実施件数 17 件 救援文化財等件数約 434 件

【内訳】

	区 分	内 容	実 施 者
1	熊本市(個人)	甲冑1点、旗指物2点	本部レスキュー
2	熊本市(個人)	彫刻1点、書画1点、掛軸3点、陶磁器2点	本部レスキュー
3	益城町(個人)	古文書2箱、書籍16箱、雛人形4、漆器・陶磁器64点、文書9点、襖3点、額3点、武具・馬具2点、棟札2点、着物1点、タンス1点、鏡台1点、火鉢1点、陣笠1点、掛軸1点、写真1点、裏貼文書1点、その他金属器3点	本部レスキュー
4	熊本市(個人)	古地図1点	本部レスキュー
5	益城町(個人)	古文書2箱、書画1点、甲冑1点、日の丸1点	本部レスキュー
6	熊本市(個人)	衝立1点、屏風1点、額装4点、掛軸11点、マクリ2点、陶磁器5点、陶人形1点、鏡台1点、和鏡3点、仏像1体	本部レスキュー
7	御船町寺社	仏像1点（町指定文化財）	本部レスキュー
8	益城町(個人)	古文書12箱、書籍3箱、漆器1点	本部レスキュー
9	水川町(個人)	掛軸4点、額装3点、屏風1点、古文書16点、書籍15点、陶磁器33点、漆器16点、銅鏡3点、ガラス製品5点、籠1点、神棚・仏具等4点、古写真1点、呉服1点	本部レスキュー
10	熊本市神社	随神像2体、狛犬2体	本部レスキュー
11	熊本市店舗	掛軸1点、書画1点、木製看板2点、稚児冠1点、古写真2点	本部レスキュー
12	熊本市寺社	仏像5体、厨子3点、台座1点、掛軸1点	本部レスキュー
13	熊本市(個人)	漆器6点、火鉢4点、掛軸・マクリ1点、扁額1点、画集・絵ハガキ集1点、和鏡1点、軍服・ゲートル2点、映写機1点、ネガフィルム集1点	本部レスキュー
14	熊本市(個人)	漆器(平膳など)5点、陶磁器1点	本部レスキュー
15	熊本市(個人)	漆器(重箱・皿・馬具等)9点、書籍4点、陶磁器(香炉・花台等)3点、炬燵2点、古文書2点、古写真2点、陣幕1点、掛軸1点、扁額(木版)1点、甲冑(兜なし)1点、軍用品(鉄鍋等)1点、硯1点、アイロン1点、鉄器(香炉)1点、呉服1点、木刀1点	本部レスキュー
16	熊本市(個人)	書籍（雑誌）1箱、古文書3箱、掛軸3箱（計30本入）、屏風1帖、漆器（盃等）1箱、琵琶1基	本部レスキュー
17	熊本市(個人)	陶磁器45箱（小岱焼、高田焼等）、和箆筥1竿、漆器4箱、古文書・書籍4箱、和鏡1点、古銭1箱、呉服等3箱	本部レスキュー

7 資料

(1) 平成 29 年度職員一覽

所長	松井浩	
主幹	國本信夫	(民俗)
参事	中原秀隆	
参事	天野守哉	(動物)
参事	黒田治	(地質)
参事	稲葉一文	(植物)
参事	中村幸弘	(歴史)
博物館活動囑託	迫田久美子	(民俗)
博物館活動囑託	前田哲弥	(植物)
博物館活動囑託	廣田志乃	(地質)
博物館活動囑託	松本晃世	(歴史)
博物館活動囑託	中藺洋行	(動物)
資料整理囑託	安田晶子	(植物)
資料整理囑託	堤将太	(歴史)

(2) 熊本県博物館ネットワークセンター条例

○熊本県博物館ネットワークセンター条例

(平成27年3月20日条例第10号)

熊本県博物館ネットワークセンター条例をここに公布する。

熊本県博物館ネットワークセンター条例

(設置)

第1条 県内の他の博物館等（博物館及び学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する機関又は団体をいう。以下同じ。）との連携の下、本県の自然、歴史等に関する情報の収集等を行い、これによって得られた資料、調査研究の成果等に関する情報を提供すること等により、県民の生涯学習の機会を増大させ、もって県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、熊本県博物館ネットワークセンター（以下「ネットワークセンター」という。）を設置する。

(位置)

第2条 ネットワークセンターは、宇城市に置く。

(業務)

第3条 ネットワークセンターは、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 県内の他の博物館等との連携体制の構築に関すること。
- (2) 自然、歴史等に関する資料の収集を行うこと。
- (3) 前号に掲げる業務により収集した資料の整理保管及び調査研究を行うこと。
- (4) 前2号に掲げる業務により得られた資料、調査研究の成果等に関する情報を提供すること。
- (5) 多目的広場及び多目的広場管理棟会議室（以下「多目的広場等」という。）を提供すること。
- (6) 県内の他の博物館等の活動の支援に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、第1条に規定する目的を達成するために必要な業務

(職員)

第4条 ネットワークセンターに、所長及び必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 ネットワークセンターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条の規定により休日とされる日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その日以後の休日以外の最初の日）
 - (2) 12月29日から翌年1月3日まで（前号に該当する日を除く。）
- 2 前項の規定にかかわらず、知事が特に必要があると認めるときは、同項の休館日を変更し、又は別に休館日を定めることができる。

(開館時間)

第6条 ネットワークセンターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、知事が特に必要があると認めるときは、同項の開館時間を変更することができる。

(使用の許可)

第7条 多目的広場等を独占して使用しようとする者は、知事の許可を受けなければならない。

- 2 知事は、前項の許可をする場合において、管理上必要な条件を付することができる。

(使用の許可の基準)

第8条 知事は、前条第1項の許可を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) ネットワークセンターにおける公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

- (2) ネットワークセンターの施設又は設備を毀損し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (3) その使用が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団を利するおそれがあると認められるとき。
- (4) その他使用させることがネットワークセンターの管理上支障があると認められるとき。

（許可の取消し等）

第9条 知事は、第7条第1項の許可を受けた者（次条第1項において「使用者」という。）が次の各号のいずれかに該当するとき、又は管理上支障があると認めるときは、第7条第1項の許可を取り消し、若しくは変更し、又は多目的広場等の使用を停止させることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 第7条第2項の規定により付された許可の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。
- (4) 前条第3号に該当することとなったとき。

（使用料）

第10条 使用者は、別表に定める額を使用料として納めなければならない。

- 2 前項の使用料（以下「使用料」という。）は、前納とする。ただし、知事が特別の事情があると認めるときは、この限りでない。
- 3 既納の使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の事情があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

（使用料の減免）

第11条 知事は、特別の事情があると認めるときは、使用料の全部又は一部を免除することができる。（指定管理者による管理）

第12条 ネットワークセンター（多目的広場等に限る。以下この条から第15条までにおいて同じ。）の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により法人その他の団体であつて知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせることができる。

- 2 前項の規定によりネットワークセンターの管理を指定管理者に行わせる場合は、第5条及び第6条の規定にかかわらず、当該指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ知事の承認を得て、ネットワークセンターの休館日を変更し、若しくは別に定め、又は開館時間を変更することができる。
- 3 第1項の規定によりネットワークセンターの管理を指定管理者に行わせる場合における第7条から9条までの規定の適用については、これらの規定中「知事」とあるのは、「指定管理者」とする。
- 4 第1項の規定によりネットワークセンターの管理を指定管理者に行わせる場合において、当該指定管理者がネットワークセンターの管理を行うこととされた期間前にされた第7条第1項（前項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の許可の申請は、当該指定管理者にされた許可の申請とみなす。
- 5 第1項の規定によりネットワークセンターの管理を指定管理者に行わせる場合において、当該指定管理者がネットワークセンターの管理を行うこととされた期間前に第7条第1項（第3項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の許可を受けている者は、当該指定管理者の許可を受けた者とみなす。

第13条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 第3条第5号に掲げる業務
- (2) 第7条第1項の許可に関する業務
- (3) ネットワークセンターの維持管理及び修繕に関する業務
- (4) 前3号に掲げるもののほか、指定管理者がネットワークセンターの管理上必要と認める業務

（利用料金）

第14条 第10条第1項の規定にかかわらず、第12条第1項の規定によりネットワークセンターの管理を指定管理者に行わせる場合には、前条各号に掲げる業務のほか、当該指定管理者にネットワークセンターの利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を収受させることができる。

2 利用料金の額は、別表に定める額に1.3を乗じて得た額を上限として、指定管理者が知事の承認を得て定める額とする。

3 指定管理者は、あらかじめ知事の承認を得て定めた基準により、利用料金の減免又は還付をすることができる。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき、又は地方自治法第244条の2第11項の規定によりその指定を取り消され、若しくは期間を定めてネットワークセンターの管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなったネットワークセンターの施設及び設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、知事の承認を得たときは、この限りでない。

(損害賠償)

第16条 故意又は過失によりネットワークセンターの施設又は設備を毀損し、又は滅失した者は、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事が特別の事情があると認めるときは、損害賠償義務の全部又は一部を免除することができる。

(雑則)

第17条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(罰則)

第18条 詐欺その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額（当該5倍に相当する金額が5万円を超えないときは、5万円とする。）以下の過料に処する。

附 則

この条例は、平成27年4月1日から施行する。ただし、第3条第5号、第7条から第15条まで、第18条及び別表の規定は、平成27年10月1日から施行する。

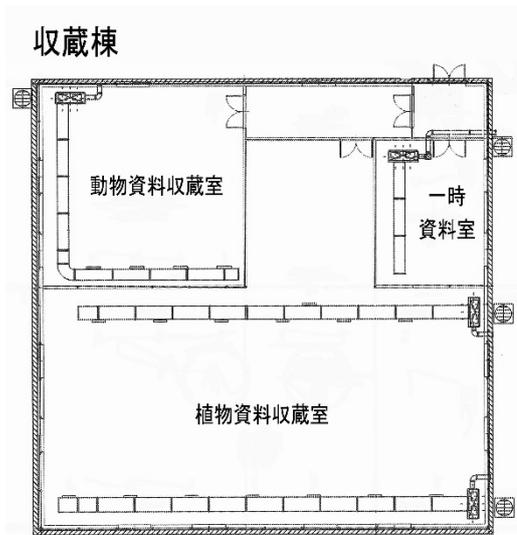
別表(第10条、第14条関係)

区分	単位	金額
多目的広場	東面	1時間につき 700円
	西面	1時間につき 800円
多目的広場管理棟会議室	1時間につき	100円

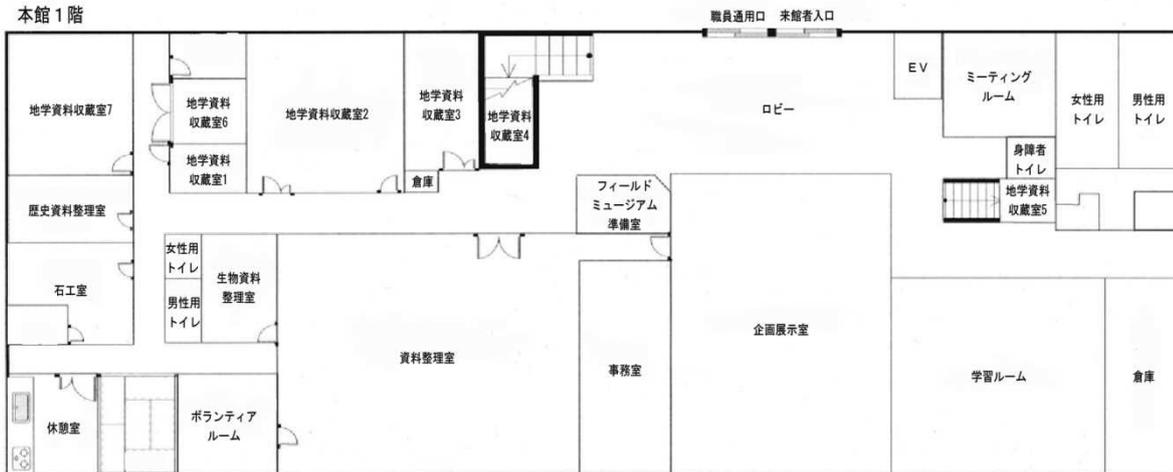
備考 使用する時間に1時間未満の端数があるときは、その端数を1時間とみなす。

(3) 施設平面図

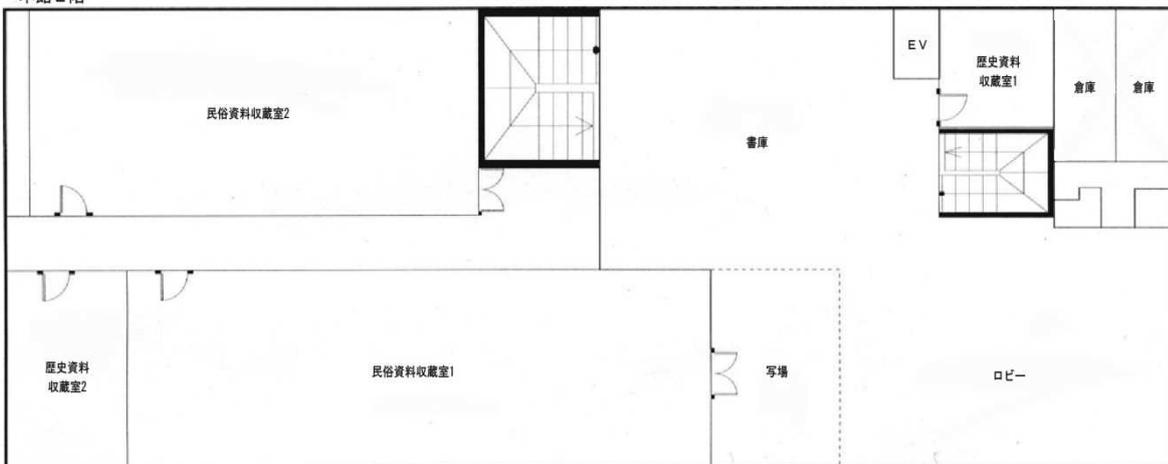
敷地概要	所在	宇城市松橋町豊福1695
	面積	61,917.40㎡
建物概要	本館	構造 RC造2階建
		建築面積 1643.30㎡
		延床面積 2889.27㎡
収蔵棟	構造	RC造平屋建
		建築面積 493.63㎡
		延床面積 480.26㎡



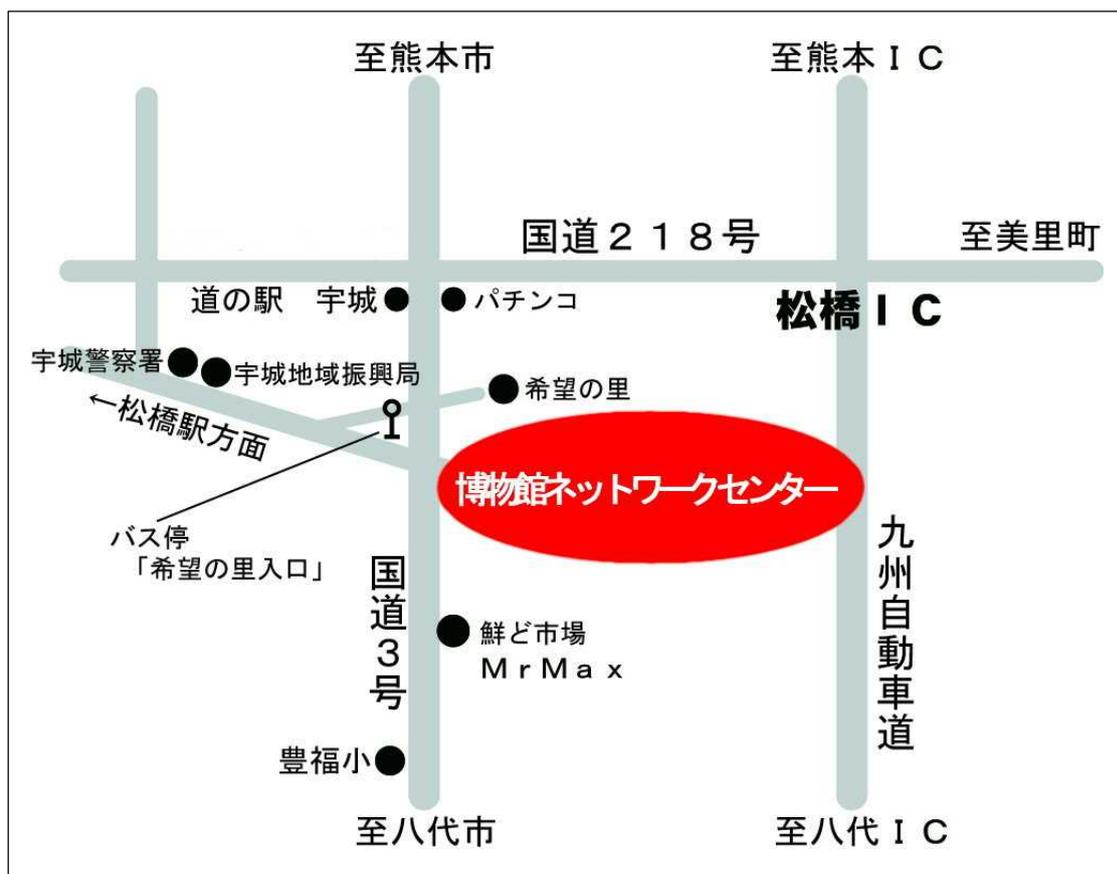
本館 1 階



本館 2 階



(4) 熊本県博物館ネットワークセンターへのアクセス



開館時間 午前9時～午後5時
 休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）
 交通案内 九州産交バス「希望の里入口」下車 徒歩3分
 JR 松橋駅より約3km
 U R L <http://kumamoto-museum.net/kmnc/>
 E-mail hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp

平成29年度 熊本県博物館ネットワークセンター活動報告書

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター
 〒869-0524 熊本県宇城市松橋町豊福1695
 電話（0964）34-3301

発行日 平成30年7月31日
